

第24回 BELCA 賞決定

第24回BELCA賞については、同賞選考委員会による厳正な選考の結果、この度表彰建築物10件（ロングライフ部門3件、ベストリフォーム部門7件）を次の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は平成27年5月13日(水)、ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1）にて開催する予定です。

ロングライフ部門においては、建築物の所有者・設計者・施工者・維持管理者が受賞者となり、ベストリフォーム部門においては、建築物の所有者・改修設計者・改修施工者が受賞者となります。

ロングライフ部門表彰建築物（順不同）

	建築物名	所在地		竣工年	用途
		所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	大多喜町役場	千葉県夷隅郡大多喜町大多喜93		1959年	役場
		大多喜町	今井兼次（新築時）、 ㈱千葉学建築計画事務所	大成建設㈱	大多喜町
2	神戸商船三井ビル	兵庫県神戸市中央区海岸通5		1922年	事務所、店舗
		㈱商船三井	渡辺節（新築時）、㈱渡辺建築事務所、 ㈱昭和設計、㈱大林組	㈱大林組	商船三井興産㈱
3	神言神学院	愛知県名古屋市中区八雲町70		1966年	教会、宿舍
		宗教法人 カトリック神言修道会	㈱レーモンド設計事務所（新築時）、 ㈱アルク総合研究所、谷口元	清水建設㈱（新築時）、 ㈱竹中工務店	宗教法人 カトリック神言修道会

ベストリフォーム部門表彰建築物（順不同）

	建築物名	所在地	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
		所有者	改修設計者		改修施工者	
1	アーツ前橋	群馬県前橋市千代田町 5-1-16	1987年	2012年	商業施設（百貨店）	芸術文化施設（美術館）
		前橋市	水谷俊博建築設計事務所、 ㈱イーエスアソシエーツ一級建築士事務所、 ㈱大瀧設備事務所		佐田建設㈱、鶴川興業㈱、橋詰工業㈱、 利根電気工事㈱、㈱群電、㈱ヤマト、 パナソニックESファシリティエンジニアリング㈱	
2	阿蘇くまもと空港 国内線ターミナルビル	熊本県上益城郡益城町 大字小谷1802-2	1971年	2012年	航空旅客取扱施設	航空旅客取扱施設
		熊本空港ビルディング㈱	㈱日建設計		大成建設㈱、㈱岩永組、㈱建吉組、㈱九電工、 太陽電気㈱	
3	EKIMISE（エキミセ）	東京都台東区花川戸 1-4-1	1931年	2012年	商業施設（物販・飲食）、 鉄道施設	商業施設（物販・飲食）、 鉄道施設
		東武鉄道㈱	清水建設㈱		清水建設㈱、東武谷内田建設㈱	
4	JPタワー	東京都千代田区丸の内 2-7-2	1931年	2012年	郵便局	郵便局、ミュージアム、 店舗、ホール・カンファレンス
		日本郵便㈱、 東日本旅客鉄道㈱、 三菱地所㈱	㈱三菱地所設計、JAHN、 隈研吾建築都市設計事務所、 内原智史デザイン事務所、PLACEMEDIA、 FisherMarantzStone、日本郵政㈱、 東京大学総合研究博物館、㈱丹青社		大成建設㈱、 ダイタン㈱、第一工業㈱、日比谷総合設備㈱、 大成設備㈱、㈱九電工、㈱きんでん、 東光電気工事㈱、㈱関電工	
5	製粉ミュージアム本館	群馬県館林市栄町6-1	1910年	2012年	展示施設（記念館）	展示施設 （ミュージアム）
		㈱日清製粉グループ本社	清水建設㈱、 ㈱トータルメディア開発研究所、 ㈱フィールドフォー・デザインオフィス		清水建設㈱、㈱トータルメディア開発研究所	
6	東京駅丸の内駅舎	東京都千代田区丸の内 1-9-1	1914年	2012年	駅舎、ホテル、 ギャラリー	駅舎、ホテル、 ギャラリー
		東日本旅客鉄道㈱	㈱ジェイアール東日本建築設計事務所		鹿島建設㈱、清水建設㈱、鉄建建設㈱	
7	中山町立図書館 ほんわ館	山形県東村山郡中山町 大字長崎8038-9	1994年	2012年	室内温水プール	図書館
		中山町	飯野設計事務所		山形建設㈱	

※ 受賞者名は今後変更されることがあります。

第24回 BELCA 賞の概要

- 目 的** 長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とします。
- 主 旨** ロングライフ部門では、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、長年にわたり適切に維持保全され、さらに今後相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている模範的な建築物を表彰し、ベストリフォーム部門では社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って、蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされた、模範的な建築物を表彰します。
- 対 象** ロングライフ部門は、長期使用を考慮した設計のもとで建設されるとともに、建設後30年以上にわたり適切に維持保全され、さらに、今後、10年以上にわたって維持保全されることが計画されている建築物が対象となります。ベストリフォーム部門は、社会的・物理的な状況の変化に対応して、今後の長期使用のビジョンを持って蘇生させる、もしくは飛躍的な価値向上等をさせるリフォームがなされ、リフォーム後1年以上かつ5年未満の建築物が対象となります。
- 選 考** 選考は、建築学界、建物所有、設計、建設、設備、メンテナンスといった多分野からなる「第24回 BELCA 賞選考委員会」（委員長：内田 祥哉 東京大学名誉教授）により行われました。
- 受賞件数** 今回を含め、ロングライフ部門105件、ベストリフォーム部門131件、合計236件が受賞しています。
- 次回募集** 第25回の募集は本年5月中旬より7月初旬まで行う予定です。

第24回 BELCA 賞選考委員会（順不同・敬称略）

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 委 員 長 | 内田 祥哉（東京大学 名誉教授） |
| 委員長代理 | 三井所清典（㈱アルセッド建築研究所 代表取締役、芝浦工業大学 名誉教授） |
| 副 委 員 長 | 鎌田 元康（東京大学 名誉教授） |
| 副 委 員 長 | 深尾 精一（首都大学東京 名誉教授） |
| 委 員 | 碓氷 辰男（東京建物㈱ 理事） |
| 委 員 | 加藤 淳一（㈱石本建築事務所 執行役員製作担当兼技術監理室長） |
| 委 員 | 栗山 茂樹（清水建設㈱ 常務執行役員設計本部長） |
| 委 員 | 河野 晴彦（大成建設㈱ 常務執行役員設計本部長） |
| 委 員 | 齊藤 一男（三機工業㈱ 常務執行役員技術統括本部長） |
| 委 員 | 佐野 清孝（日本電設工業㈱ 執行役員営業統括本部副本部長） |
| 委 員 | 重田 耕輝（大星ビル管理㈱ 取締役工事業務部長） |
| 委 員 | 渡邊 顕彦（㈱三菱地所設計 代表取締役常務執行役員） |

※ 各委員の役職は選考時のものです。

第24回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会 委員長 内田 祥哉

BELCA 賞は、良好な建築ストックが、現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も、永く維持保全される計画がある模範的な建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門とし、平成3年から昨年まで、表彰件数は226件を数えている。

BELCA 賞への関心は、昨今、年々高まりつつあるが、現代社会の中で活用されるためには、ロングライフ部門でも設備の抜本的現代化が必要であるのに対し、ベストリフォーム部門では利用者達の建物への愛着を重んずる傾向が増している。そのため近年は、両部門の件数をあらかじめ定めず、合わせて10件を選考することになっている。そこで本年はロングライフ部門3件、ベストリフォーム部門7件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、阪神淡路の地震にも耐えて使い続けられているオフィスビル、地域に愛されてきた町役場、創建当時の卓越した設計と施工技術の保存に注意を払った教会など、何れも過去に名作として評価の高かったものや、文化財として価値あるものだが、保存改修の方針を自らの意志で考えようとしていることが注目される。

ベストリフォーム部門では、明治、大正以来、東京駅広場の景観に馴染まれてきた鉄道、通信の二つの建物が選ばれたが、何れも戦火と長年の利用による傷みが激しく、傷の補修、復元の技術に高く評価されるところがあった。これらに加え、浅草の私鉄駅も嘗てのランドマークであった姿を蘇らせており、社史に残る記念建築では可能な限り保存するために多くの手間と時間がかけている。ベストリフォームとはいえ、いずれも保存に対する真剣な配慮がひしひしと感じられた。それらに対し、空港建築では、発展する交通拠点の利用に対する快適性を、部分的改造でみごとに蘇生させており、また、街の中心の賑わいを取り戻すために、百貨店を美術館に改造した建物は、その導線と外観に之までにない斬新感を作り出している。最後に、今回も地方都市のささやかな小規模建築作品が注目された。遊泳プールの形をそのまま改造した図書館は、図書館建築の構想からでは発想しがたい様々な和やかな空間を、おしゃべり図書館として実現させ、選考委員に強く注目された。

これらの建築物をみると、応募作品の水準は年ごとに高まっており、惜しくも選に漏れた建築物も多かったのもので、それらについては再度の応募を期待したい。

BELCA 賞の周知の範囲は次第に広まってきた。しかし、未だ受賞建築物のない県が9県あり、建築物の維持保全技術の全国的普及を目指す賞の趣旨から、未受賞の地域からの応募も切に期待したい。

第24回 BELCA 賞ロングライフ部門評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 鎌田 元康

今回のBELCA賞の応募物件は、力作が多く、かつ、ロングライフ部門・ベストリフォーム部門とも昨年より件数が増えたが、表彰件数は10件以内という制約から、書類選考・現地審査を通過し、表彰される各建物は、極めて質の高いものとなった感がするとの発言が、第2次選考委員会で多くの委員から出された。部門ごとの表彰件数は、昨年と同様ロングライフ部門3件、ベストリフォーム部門7件である。

ロングライフ部門で表彰される3件は、耐震性・耐久性の面での不安、スペース不足から解体も検討されたが、故郷のシンボルとして愛され続けてきた建物を、増築棟の建設、引っ越し、既存棟の改修という手順を踏んで蘇らせた、今井兼次設計、1959年竣工の「大多喜町役場」、1995年の阪神淡路大震災で地下1階が水没し、基幹設備が損傷する被害はあったものの、建築的に致命的な損傷がなかったことから丁重な復旧工事が行われ、取り壊し建て替えの話も出たが、関係者の熱意により全面的な耐震補強を行い、港町神戸を象徴する建物であった渡辺節設計、1922年竣工の建物を生き返らせた「神戸商船三井ビル」、移転か継続使用かの選択に迫られた時期もあったが、長期にわたる検討を通じて、建築専門家の意見や出身の神父たちの原風景への強い思いが契機となり、内外装改修、宿舍の耐震補強、設備改修、アスベスト除去という大改修実施へ至った、自邸を日本で最初のコンクリート打放しで実現したアントニン・レーモンド設計、1966年竣工の「神言神学院」である。

3件とも耐震改修が行われており、地下を含めて3層の大多喜町役場では耐力壁の追加と既存壁の増打ち、神言神学院では、複雑な円筒シェルで構成される鐘楼を含む教会部分は補強が必要なく、回りを口の字形に囲む地下を含め最大で4層の宿泊棟等を、大多喜町役場と同様の耐力壁の追加と既存壁の増打ちを基本とし、一部にピン接合鋼管ブレース設置で対処している。これに対し、地下を含め8層の神戸商船三井ビルでは、凹型の建築プランのへこみ部分に大規模な外付け耐震フレームを設置している。いずれの物件でも、十分なプラン・意匠面での配慮の上耐震補強を行っており、特に、神戸商船三井ビルの耐震フレームが外観を一切損なうことなく設置されていることが評価された。

3件とも、竣工時の外観に近づけることに努力するばかりでなく、内部の装飾等を含め、古いものを大切に扱っている点が高く評価された。大多喜町役場の今井兼次によるモザイクタイル装飾の再生保存・スチールサッシュの再利用、神戸商船ビルでの共用部を中心とした天井・壁、さらには床のモザイクタイルに至るまでの保存、3基のうち1基だけ竣工当時のエレベーターを残し、また、メールシュートも残している点、神言神学院のレーモンド夫人によるといわれる色使いの再生など、50年ほど前に建築を学んだ私にとって、新たな魅力を感じさせられたものが数多く、学ぶべき点が多かったことに感謝したい。

第24回BELCA賞ベストリフォーム部門評

BELCA 賞選考委員会 副委員長 深尾 精一

ベストリフォーム部門は、年を追うごとにレベルが高くなってきているが、今回応募された建築にも、様々な意欲的な試みがなされているものが多かった。ストック活用型社会に向けて、当然の動きと言えよう。また、応募された建築の用途・規模・構造等も多種多様になっている。結果として、前回同様、表彰された10件のうち、7件がベストリフォーム部門ということになった。

今回は、大きな駅舎が2件同時に選ばれたことが、ひとつの特徴であろう。乗降客をはじめとする不特定多数の利用者がいる建築を、その機能を止めることなく改修工事を行うということは、並大抵のことではない。そして、その二つとも、当初の形に戻ることが狙いのひとつになっており、ロングライフ部門にも値する建築といってよいであろう。そのひとつは東京駅丸の内駅舎である。2014年、開業百年にあたる年に現地審査が行われたわけであるが、建築界のみならず、社会に広くその改修工事が話題になったことは、BELCA賞が目指している建築ストック活用の意義が一般の方々にも共感をもっていただくようになったという意味でも、素晴らしいことであった。今一つの駅舎は、EKIMISE（エキミセ）－東武鉄道浅草駅舎－である。百貨店併設の昭和初期の駅舎は、約40年前に現代的なファサードに改修されていたが、耐震改修とテナントの入れ替わりに合わせて、当初の様式に戻されている。耐震補強の手法もユニークであるが、建物の中に線路・プラットフォームが組み込まれており、深夜の限られた時間帯に行われた改修工事の進め方は、特筆すべきである。この、一般の方々が気づかないようなリフォームの部分も、高く評価された。

阿蘇くまもと空港国内線ターミナルも、運輸機関を稼働させながらの改修工事という点では、駅舎と類似している。ただ、こちらは、あまり特徴のない現代の建築を、県産材の木材を多用することなどにより、建築としての価値を飛躍的に高めるというリフォームが行われている。BELCA賞ベストリフォーム部門の目指すところに合致したデザインであり、二つの駅舎とは対照的であった。

交通機関のための建築ではない他の選定された4件も、もともと価値の高い建築を、今後も継続して用いていくための改修を行ったものが2件、そして、当初の建物の建築的価値はそれほど高いとは言えないものを、リフォームによって見事に生き返らせたものが2件と、バランスのとれた選定となった。

JPタワーは、東京中央郵便局という、わが国の近代建築の流れの中で、極めて価値の高い建築を、現代の機能的要求に合わせるべく、大胆にリフォームを行った事例である。その部分保存に至るプロセスは報道され、社会的関心と呼んだが、新たに生み出されたアトリウム空間に、既存の建築の断面を表現するという手法は、様々な意見があるであろうが、いままでにないリフォームの手法として特筆すべきであろう。

製粉ミュージアム本館も、会社の歴史を象徴する、価値ある木造建築であるが、重量のある鉄筋コンクリートのスラブを新たに設けることにより、免振レトロフィットの手法として新たな実績を作り上げている。これも、ロングライフ建築と言ってよいであろう。

一方、アーツ前橋と中山町立図書館ほんわ館は、改修前は建築界で話題になることのないような建築であったものに、リフォームによって新たな命を吹き込んだ、ベストリフォーム部門ならではの2件である。アーツ前橋は、多層の商業施設の一部を、公立のミュージアムにコンバージョンしたものである。展示施設は、機能的要求がそれほど複雑でないので、コンバージョンの事例は少なくないが、この建築は、エスカレーターの開口部など、既存躯体のありようを十分に咀嚼して、ベストリフォームと呼ぶにふさわしい改修を行っている。外装の付加手法も特筆すべきであろう。中山町立図書館ほんわ館は、室内温水プールとして建設された比較的新しい施設を、いままでにない形の図書館にリフォームするという計画で、これまた、流水プールの斜めの床やウォータースライダーなどの既存の構造物のありようを活かした改修であり、ベストなリフォームである。

以上のように、同列に並べて比較することが難しい、多様な応募作品を対象とした選考であったが、結果としては、バラエティーに富んだ、BELCA賞ベストリフォーム部門が対象とする現在の状況を、的確に記録することができる選定が行えたといえるであろう。